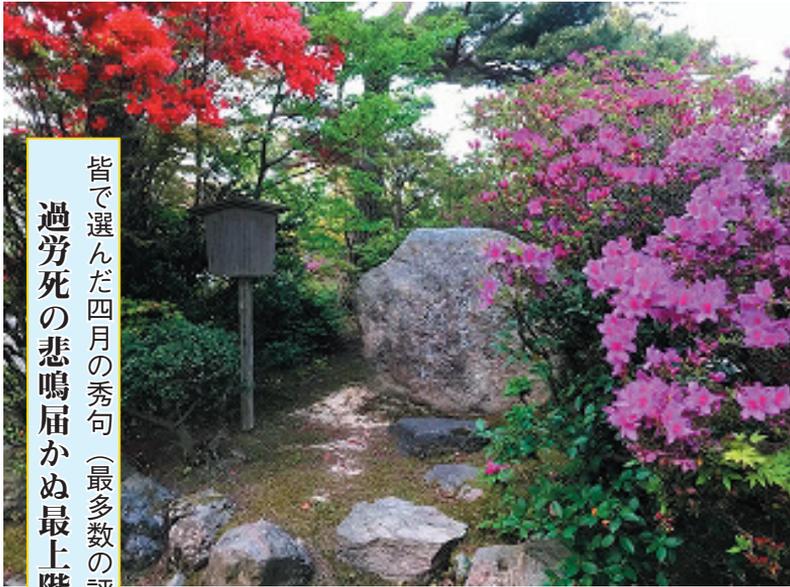


石川県内の川柳会との交流を進めます。

「和」川柳社会報 六六七

定例会 二〇一八年四月二三日(月)

第四月曜日 定例於…金沢市金石町



皆で選んだ四月の秀句(最多数の評価を得た句)
過労死の悲鳴届かぬ最上階
亀公子

鶴彬句碑「暁を抱いて闇にゐる蕾」
1965年に日本初となる鶴彬の句碑が卯辰山玉兎ヶ丘に建立。今年は建立後63年となります。(5月撮影)

← 日本的組織の本質を見事に詠んで参加者の共感を得、今月の秀句になった。「働き方改革」を鋭く突いている！(周)

◆ 目次

川柳互選	2
課題「助」	2
雑詠	2
自選句	4
作品寸評(岩原&周)	5
戦後「鶴彬顕彰運動」の歩み	7
岡田一と	9
古都金沢で五七五	12
陰で動かす日本会議	15
四月例会報告	16
編集後記	16

五月例会 5月28日(月)
投稿締切 24日(木)
課題「休」二句吐
雑詠 三句吐、自選句など

今月の 川柳互選

◆課題「助」

(互選) 一人2句吐

- 助走では結果それなり出している
ダン吉
- 人助け自分助けと人の言う
未知子
- 1 国会に助さん格さん出しておいで
未知子
- 1 国追われ安倍トランプに助け乞う
和子
- 1 NHK 付度増してアベ助け
宏
- 1 九条が助けた命日誌にも
一角
- 1 大相撲 伝統よりも 人助け
宏
- 1 警察に助けられてる国会前
一角
- 2 付度し助言も出来ぬ裸の王
広助
- 2 救助にもソロバン勘定したたかに
立東爺
- 2 トランプは安倍助けには応じない
和子
- 2 昨日まで助けていると思ってた
ダン吉
- 2 被災地の補助金迄も削り出し
大峰

- 2 援助交際罫に嵌められ再稼働?
徹乗
- 3 「火垂るの墓」誰も助けぬ孤児二人
徹乗
- 3 三八度線 助走路に立つ平和の灯
立東爺
- 4 低迷のトラ・ポチ笑顔の助け合い
白真弓
- 4 補助金で手足も首も締めあげる
亀公子
- 4 低迷のトラ・ポチ笑顔の助け合い
白真弓
- 4 補助金で手足も首も締めあげる
亀公子
- 4 改ザンも助言も底が抜け落ちる
亀公子
- 4 岩盤にドリルで穴開け加計助け
中野林
- 5 官僚がバカ殿助ける猿芝居
白真弓
- 5 嘘八百積んだ助け舟沈み出す
大峰
- ◆「雑詠」(互選) 一人3句吐
- 昨今はポチも飛行機で海を越え
立東爺
- アベ与党財務・防衛 民だまし
宏
- オスプレイ事故多発にも 民意無視
宏
- 帰国後は安倍と付度どこへやら
和子

1	つぶやきで金を生み出す省力化	立東爺	3	半島の希望を武器商人が弄ぶ	立東爺
1	セクハラに文句あるなら名乗り出る	中野林	3	朝夕に紙面にぎわす「安倍案件」	中野林
1	トランプにほぼえみ外交してる安倍	徹乗	3	血税に群れるカラスの伏魔殿	亀公子
1	代替わり人間宣言棄て去った	大峰	3	めくら判大臣居直り唾然とし	一角
1	正論と思うひとりが臆さない	ダン吉	3	文民統制稲田の上に居た幕僚	大峰
1	制裁のみと何処の首相か言い続け	未知子	4	安倍無策北の非核化よりわが命	和子
1	誰のミックスですか問う年金日	広助	4	「圧力だ」そういうあんた蚊帳の外	徹乗
1	東電は天災だったと裁判で	未知子	4	官邸の一強おごりのしつぽ切り	宏
1	官僚の限界見たり二次セクハラ	白真弓	4	安倍総理もういい楽になりなはれ	ダン吉
1	原稿にルビ打ち頼む大臣さん	未知子	4	拉致問題取引カードに利用され	白真弓
2	辞めてこそ男があがるいいチャンス	一角	4	出しゃばりは喚問だけは出たがらず	大峰
2	かすかだが核ゼロの日が見え	ダン吉	4	一強で反骨議員闇の中	広助
2	その一步その一声が民主主義	白真弓	4	日本一美味なモリカケ喰いました	広助
2	安倍辞めるそれだけ言った国会前	一角	4	支持上げに拉致ふらさげでトランプ乞う	和子
2	札束と核で物言うトランプ号	亀公子	6	過労死の悲鳴届かぬ最上階	亀公子
2	真実を拒みデータと恥を消す	徹乗			

自選句

◆自選句

笠原白真弓

414 動画で参加安倍辞める

白い雲ただ眺めてぶらりよういる無聊の日

幽閉の隙を伺い映画館

リハビリの百段登り板につき

家事こそはリハビリなりと精を出し

◆自選句

前田 大峰

南北の平和の野火が燃え上がる

核廃棄晋三蚊帳の外でこね

日本中オスプレ飛ばす安保ボケ

属国の制空権米軍機の独り占め

見せたくない資料真つ黒に塗りたくり

行政私物化ガツポリ血税撒き散らし

介護難民格差に爪付き堪えて居る

逃げながら民主主義に泥を掛け

公文書改ざん本音吐かぬ安倍夫婦

加計疑惑トカゲの尻尾山と成し

◆自選句

岩原一角

国会は怒りの声が五万人

マイカーの疲れも飛んだ大コール

花道はもうどこにもないバカな殿

脳みそが腐って部下は改ざんし

—— 4・14 国会前にて

4・14 呼びかけ見つけマイカーで

国会前はやっぱり早くつきすぎた

闘病の友の面影経産省

国会に戻って預かる横断幕

大阪にフロリダまでも逃げるアベ

アベ辞めろ！それをいいたく上京し

声高にラップコールが鳴り響く

一点で集まる人の声五万

帰宅して参加報告アベ辞めろ

その一点で闘うことを主張する

作品寸評

by 岩原茂明 & 周立東爺

666号の作品から 《評…岩原茂明》

◆ 大きな手柄と名誉は上司のもの ともこ

我思うに、終身雇用制のころは、それでも労働者はがまんした。失敗したときの責任も上司がかかるのがふつうのはずだからだ。しかし、その終身雇用制がなくなつた今でも手柄と名誉をとりあ

げる上司、働く者の怨嗟の的であつてもやめよう
としない。残念だが、働く側にそれをやめさせる
力がたりない。だから、私はいう。万国の労働者
は団結せよ！メーデーは団結の日だ。

◆ まつとうな人が亡くなる財務省 徹乗

「このままでは全部オレのせいになれる」といつ
て亡くなつてしまつたとか。もちろん決裁書の改
竄に加担したことへの罪悪感にさいなまれてのこ
とだろう。

しかし、それを指示した幹部たち、さらには財
務大臣、内閣総理大臣、誰ひとり、今日4月13日
現在では辞めようとはしない。権力に固執するこ
とが、彼らの生きざまなのかもしれないが、亡く
なつた方の無念をはらすためにも安倍内閣の総辞
職を実現したいものだ。

666号の作品から《評：周立東爺》

◆ 儂知らん部下を労る気がないね 一角

「儂」の漢字で悩んだ。漢和辞典を開く。この漢字「わし」っていうのですね。「中世の俗語で自称を表す言葉。呉語(上海地方の方言)では「我」の意味。中国の史書では「汝」「彼」などの意味でも使う」という。「わし知らん」とか「わしや知らん」ではダメなんだろうか？

◆ 改ざんし過労死出ない裁量制 広助

まさに働き方改革の焦点で、これをどう詠むか？ 労基法の働き方の制限をとっぱらってしまえばたとえ働き過ぎで死んでも過労死と認定されない。法をいじって過労死を過労死としない姑息な知恵。政府のやり方怒りをどう表現するか？

政府の知恵に対して庶民の知恵は川柳の寸鉄を研ぎ澄ます。

◆ ロボットでないから唄う労働歌 亀公子

そう言えば労働歌って最近聞いたことがありますね。春闘もおとなしい。中小企業の争議も聞かれませんね。それはそれは労働組合の組織率は過去最低、一七・七%だそうだ。労働現場は問題だらけなんです、労働歌を唄うにも団結できぬ現実。労働者諸君はロボットにされたか？ 亀公子さんの作品はいつも関心しています。厳しい現実をさらりと詠みリズムが心に残ります。



1965年(昭40)川柳「和」。
 毎号、表紙の絵は岡田一と
 氏である。

戦後「鶴彬顕彰運動」の歩み

岡田 一と

一九六五年六月二五日「和」より

鶴彬に関する研究は、戦後しばらく断片的に「人民川柳」誌・「俳句人」誌・アカハタ等でもって発表されたが、年を追うに従いこの研究は、より

深く幅広い層に向かって発表されるようになり、鶴彬顕彰運動もその中から芽生えて来た。来る九月の命日に句碑除幕式を迎へるに当たつて、研究、顕彰に関する運動を年代式に序列することに、より一層の鶴彬認識が昂まり、より完全な研究が為されることを期待している。

◎ 一九四九年(昭二四) 四月七日石川県高松町中沼了念寺に於いて、鶴彬のかつての親友、都栄(古林徳次氏)など三名によつて鶴彬追悼会が行われた。

◎ 同年九月三〇日発行の「人民川柳」三号に小池蛇太郎氏が「鶴彬のこと」と題して小文を発表した。

◎ 一九五〇年(昭二五) 一月二五日附アカハタに(「しゃもの国」と斗った詩人)と題して長

谷川英夫氏がエッセイを発表。

◎ 一九五五年（昭三〇）アカハタ紙上に「S」の署名で「革命的な川柳作家－鶴彬・二十九年の生涯」が発表された。

◎ 同年十二月一日発行、川柳和七号に鶴彬の作品・思い出などを特集した。

◎ 同年十二月十一日夜、金沢市寺町四丁目・長久寺に於いて「鶴彬を偲ぶ会」を和川柳社主催で行った。

◎ 一九五六年（昭三一）二月一日発行の人民川柳十二号に「鶴彬のお母さん」と題した小文を青木英夫氏が発表。

◎ 同年九月十四日、和川柳社主催で第一回の鶴彬追悼句会を金沢市木ノ新保町妙蓮寺にて催した。同じこの月に北陸新聞紙上に「鶴彬忌に寄す」一文を岡田一吐が発表。

◎ 同年九月十五日発行の川柳和十九号より十九

号（同年十二月十五日発行）にわたって「獄中の鶴彬」と題した鶴彬研究を青木英夫氏が発表。

◎ 一九五七年（昭三二）一月二五日発行の川柳和二〇号に「鶴彬検査の日と三味線草資料」と題する研究評論を大村沙華氏が発表。

◎ 同年九月一四日鶴彬忌句会を和川柳社にて行う。

◎ 一九五八年（昭三三）五月、東京にて催された現代川柳連盟総会にて、死後二十周年を記念する「鶴彬顕彰」の動議を石原青竜刀氏が提出（少数否決）。

◎ 同年六月十二日、金沢市馬場 伊藤氏宅で鶴彬記念準備会をもった。

◎ 同年八月発行の人民川柳二一号に「鶴彬死後二十周年を迎えて」と題して岡田一吐がエッセ

イを寄稿した。同じく同誌に人民川柳社は「鶴彬死後二十周年記念のために」との一文をもうけて句碑建立募金を訴えた。(第一次鶴彬句碑募金運動)

◎ 同年「県民の友」紙(原由友氏発行)の六月一日号(三二二号)より八月一日号(三一七号)にかけて「鶴彬遺稿集」として、評論・詩・川柳作品などを集録した。また、

◎ 同年九月十一日号(三二二号)を「鶴彬句作集」として特集。

◎ 同年九月十四日、金沢市妙蓮寺に於いて鶴彬二十週忌追悼句会を和川柳社主催で行った。

◎ 一九五九(昭三四)三月発行の「兵庫市民のこえ」一一号に山本浄平氏が「鶴彬」と題するエッセイを発表。

◎ 同年六月十一日発行の「県民の友」紙

交流句会《古都金沢で五七五》へのお誘い

主催：石川県川柳協会

第一部 誌上大会

※石川県川柳協会会員で競う誌上大会です。能登から加賀から普段は県の大会に参加されていない会員の方々も投句をお待ちしています。

※課題【花】

※選者(八名共選) 赤尾よし樹 中島恭子 小西都桶爪ふみ子 岡本聡 清左とみ 中村正樹 尾田洋子

※投句料 無料 付属の投句用紙でお送り下さい。

(各選者の秀句3点 佳句2点 平拔1点で集計し表彰)

第二部 当日句会

※日時 五月二十九日(火)石川県女性センター(六枚町)

※課題【列】二句詠

※選者(共選) 石垣千恵子 城山悠歩

※会費 五〇〇円

第三部 ささやかな懇親会(希望者のみ)

※会費 二〇〇〇円(当日句会後、同場所で行います)

投句先(問い合わせ)かほく市木津への551井口武久

電話：076・285・0638

- (三四八号)に岡田一吐署名で「鶴彬の石碑建立についてのアピール」と題して訴えた。
- ◎ 同年九月十四日石川県河北郡高松町に建立予定の句碑計画が、予定地の都合で中止。
- ◎ 一九六〇年(昭三五)九月五日、和川柳社で鶴彬祭実行委員会をひらく。
- ◎ 同年九月十四日金沢市木ノ新保、妙蓮寺に於いて鶴彬祭実行委員会・和川柳社・石川県民文化会議・金沢川柳連盟共催で第一回の鶴彬祭を行った。
- ◎ 同年九月発行「思想の科学」誌(中央公論社)二二号に秋山清氏が「ある川柳作家の生涯」と題してエッセイを発表。
- ◎ 一九六一年(昭三六)八月一日発行の「川柳こなゆき」誌(一四八号)から翌年五月発行の一五七号まで十回に渡り佐藤冬児氏が
-
- 「反抗の生涯」反戦の川柳家鶴彬一と題して研究論文を発表(未完)。これは一九六四年の同誌二月号と八月号につづけられて完結した。
- ◎ 一九六一年九月六日に鶴彬祭実行委員会を和川柳社にて開いた。
- ◎ 同年九月十四日、金沢市妙蓮寺にて鶴彬祭を催し、之には東京より石原青竜刀氏も参加した。
- ◎ 一九六二年(昭三七)八月一五日附発行の河野春三氏著「現代川柳の理解」(三〇〇頁)の中にツル・アキラの一項(四頁)が設けられた。
- ◎ 同年九月十四日金沢市子来町川柳和同人のみで鶴彬記念句会をもった。
- ◎ 同年十二月一日附発行の「文化評論」十二月号(ナンバー二六)に岡田一吐が「鶴彬」と題してエッセイを発表。
- ◎ 同年十二月六日号のアカハタに「鶴彬の業績

を偲んで」と題する小文を岡田一吐が発表。

- ◎ 一九六四年（昭三九）金沢市子来町で鶴彬記念句会を和川柳社同人で行った。

- ◎ 同年十一月三日和川柳社で鶴彬句碑建立打合せ会を行い「鶴彬顕彰会」が発足した。

第二次句碑建立募金に入る。

- ◎ 一九六五年（昭四〇）二月発行の「俳句研究 二月号」に山村祐氏の努力により「つる・あきら」特集がのり、壺井繁治・石原青竜刀・佐藤冬児・横山林二の各氏が各々執筆した。

- ◎ 同年三月一七日発行号のアカハタに「川柳—その批判精神」（岡田一と）と題して鶴彬をとりあげた。

- ◎ 同年四月三〇日 第二次句碑募金メ切

- ◎ 同年五月一日より句碑建立の第三次運動として石川県を中心に呼びかけを行い、パンフレッ

トの発行、碑の選定を経て、世話人も金沢在の文化人、それには社共両党の県議・市議に自民党所属の議員も協力するなど幅広い運動に発展している（六月十五日現在）

第二次募金運動に入ってから鶴彬句碑建立募金の呼びかけに協力された各結社は次の通りである。（六月二〇日現在）

森 林 2 号（東京）森林書房

うずまき一二四号（神戸）うずまき川柳社

ますかつと二五〇号（岡山）川柳岡山社

諷刺人十六号（東京）諷刺人同盟

川柳人三九七号（東京）柳樽寺川柳会

新歌人（金沢）新歌人社

蟹の目 九九号（金沢）蟹の目川柳社

和 五八号（金沢）和川柳社

尚、現在迄に同人誌を除く新聞・雑誌などを紹介したものは次の通りである。

アカハタ、北國新聞、北陸新聞（北陸中日）、

神戸市民のこえ、県民の友、文化評論、俳句研

究、思想と科学、目黒新報 読売新聞（北陸版）

石川県史（第二巻）

日本を陰で動かす 日本会議

日本会議の事を知るのは、今の社会を知ることでもある。ただ政治的出来事を追いかけるだけの安っぽい時事川柳から脱し、本質を知るために日本会議の内容を前号に続いてまとめました。詳しくは紹介している日本会議に関する書籍を読んでいただきたいと思えます。（周）

憲法改正を訴える「危ない」正体

「宗教右派の統一戦線」が目指すものより

（前承） 驚くべきは日本会議の構成員が閣僚に占める割合である。第一次安倍内閣では首相をはじめ十二人、麻生内閣では九人だったが、改造前の第二次安倍内閣で十三人、現内閣では十九人中十五人に増えた。公明党枠の一人を除く閣僚全員が「神道政治連盟国会議員懇談会」メンバーとなっている。

また旧民進党にも前原誠司、松原仁、鷲尾英一郎、笠浩史、芝博一、金子洋一、渡辺周、寺田稔が日本会議に所属し、脱退したという原口一博、長島昭久などの名もあった。

新憲法の制定めざす

日本会議は新憲法の制定をめざしており、特に「軍事力増強」「緊急事態条項」「家族保護条項」の条文化を重視している。日本会議広報部長の村主真人は、「政府に夫婦別姓を導入する動きがない今は、家族を憲法にどう位置づけるかが課題だ」と述べている。活動の一環として、憲法改正を要求する大規模集会などを開いている。日本会議広島は、毎年8月6日に「ヒロシマの平和を疑う」「『ヒロシマ』の平和は本当か」などのタイトルで毎年講演会を開き、憲法9条などの改正を求める活動を行っている。また、二〇一六年三月の総会では、新憲法で、緊急事態条項の条文化を進める方針を確認し、さらに主要な改正テーマとして、前文、安全保障、家族、改正手続き、地方自治などを記載した。

署名活動に各地の神社から批判も

二〇一五年四月頃からは、各地の神社において憲法改正を求める署名活動なども行っている。毎日新聞は、神社における署名活動に関しては、「神社の職務は、参拝者に気持ちよくお参りをさせていただく環境を整えること。不快感を抱く人もいる改憲運動を持ち込むのは、神職の職務放棄、神社の私物化」などの、独立神社（神社本庁傘下ではない神社）関係者からの批判を報じている。

二〇一七年五月三日、日本会議が主催する憲法議論集会において、安倍首相は、憲法改正の決意を語るビデオメッセージを寄せた。

復古的な家族観条項も改憲の柱

朝日新聞は、日本会議が男女共同参画に反対している団体であり、選択的夫婦別姓などの政策に

は「家族の一体感が損なわれる」などとして強く反発し、政府が法案を国会に提出しようとするたびに大規模な反対運動を繰り広げてきた、と報道している。また、毎日新聞も、「選択的夫婦別姓に反対するなど、復古的な家族観を持つ政治団体」（水無田気流、雨宮処凛との座談会での岡田憲治・専修大学法学部教授の発言）であるとの識者の意見を報じている。

女系天皇や外国人参政権に反対する大規模な集会を開いたことが報道されている。

AMAZONのレビューから

「日本会議の研究」（菅野 完著）について

久しぶりに面白い本を読んだ。本書は、日本最大の右翼団体「日本会議」がとある特定の右翼系カルト団体に支配されているという事実を膨大な

調査から解き明かしている。

その右翼系カルト集団とは、「生長の家」という神道系カルトで、今の「生長の家」はエコロジー系の新興宗教だが、かつては神道のアルカイダと言えるほど、過激な右翼宗教集団として影響力を持っていた。かつての過激カルト集団の頃に活躍した人間が「日本会議」の実際の運営に携わっていると本書は説く。もっとも、「日本会議」がカルト集団と密接に関係していることは前から指摘されていたことである。

確かに「日本会議」の参加団体に名を連ねる団体にはカルト系が多く、逆に「生長の家」は登場してはいないのだが、本書の指摘が正しければ、「日本会議」に参加する多くのカルト集団を束ねるのは「生長の家」の過激派集団と言うことになる。



日本の底流を理解する著書は多数ある。とりあえず手持ちを紹介。上段左から「敗北を抱きしめて」「日本会議の正体」「日本会議の研究」「日本会議と神社本庁」「戦争の大問題」「戦後史の正体」「日本会議とは何か」「学生を戦地へ送るには / 田辺元『悪魔の京大講義』を読む」

◆ 四月例会（句会）報告

句の選考を終え、前回（総会）からの懸案事項について話し合いました。

● 参加者全員の意見が一致したのは、今年度から「全日本川柳協会（日川協）」には加入しなくてもよいことです。すでに同人（例会参加会員）のほとんどが「石川県川柳協会（石川協）」に加入していることや「石川協」が「日川協」に団体加入しているの、あえて加入する必要がないということ。それよりも、これからは「和川柳社」として県内の川柳愛好家と友好を深めることが大切ではないかと意見がまとまりました。

● その他、会費、組織などの会則改訂については、今後時間をかけて深めていくことになりました。

◆ 編集後記

▼事務引き継ぎがスムーズにいかず、前号（会報666号）の郵送、配布が遅れた方があり、大変申し訳ありませんでした。▼今年には鶴彬没後八〇年。また、卯辰山の「暁の句碑」が一九六五年に建立されて六十三年たちます。戦後、鶴彬の存在を知った岡田一と氏は、その功績を広め、顕彰しようと句碑建立の活動を始

め、建立にこぎつけました。岡田一と氏の建立直前の文章（戦後「鶴彬顕彰運動」の歩み）が見つかりましたので紹介しました。▼国会は川柳の材料には事欠かないのですが、時事川柳（社会詠）はどうかすると新聞やテレビニュースの後追いになってしがちです。川柳は「吐く」と言いますが、吐く前によく咀嚼して消化し、生のままで吐かないこと。そのため

和川柳社 5月例会の案内

5月28日（月）◆会場：金沢市金石にて

◆課題句「休」2句吐 ◆自由句：3句吐

◆自選句、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などお寄せ下さい。◆メ切は5月24日（木）

◆句報を持参下さい。例会で話し合います。

●投稿 FAX (076) 254-0762

郵送は

●メールアドレスは下段に。

下段住所へ。

にも現代政治の底流に働いている「闇」の力についてまとめてみました。時々報道でも話題になりますが、詳しい解説はありません。内閣をも支配する闇の力なのですね。（周）

和川柳社

連絡先・編集室：金沢市金石東2丁目15-30（渡辺方）
 電話：076-254-0762 pc-mail：kananabe@popolo.org
 携帯：090-9445-1302 携帯mail：kan-wata@i.softbank.jp